

竹原市の通いの場を対象とした結核健康教育の効果について

広島県西部東厚生環境事務所・保健所保健課
○渡利亜由美、廣中小由里、松村真理、中西鮎美、
谷口世玲奈、齋藤真緒、原口友香理

I はじめに

日本の結核罹患率は減少傾向にあり、令和3年には結核低蔓延国となった。しかし、広島県では依然として年間約200名の新規結核患者が発生しており、そのうち70歳以上の高齢者が70%を占めている¹⁾²⁾。特に高齢者の結核は自覚症状に乏しく、受診や診断の遅れにつながりやすいことが指摘されている³⁾。

竹原市における新規結核登録者数は令和5年から令和6年に急増し、そのうち75歳以上の後期高齢者が、令和5年は75%、令和6年は57%であった。特に喀痰塗抹陰性や潜在性結核感染症の患者が多い地域がみられた。

これらのことから、高齢者に対する結核の発病予防、早期発見・早期治療に関する普及啓発が必要であることが明らかとなった。

そこで、日常生活自立度が保たれ、活動性が高く、地域のキーパーソンとして情報発信を期待できる通いの場の参加者を対象とした結核健康教育を実施したため、その効果を明らかにする。

II 方法

令和6年度に、竹原市地域支えあい推進課が選定した通いの場2か所の参加者34名を対象に健康教育を実施し、「とても参考になった」「結核についての研修はよかった」との反応が得られたため、令和7年度は次のとおり実施した。

(1) 対象者及び通いの場の選定

竹原市内63か所の通いの場に健康教育の実施希望調査を行い、30か所から希望が得られた。そのうち、地区診断により結核の発生が多い地区15か所を対象とした。実施調整ができた14か所を保健師が訪問し、通いの場参加者154名を対象者とし、健康教育を実施した。

(2) 健康教育の内容

① 体制

健康教育は地区担当保健師が実施し、通いの場の規模や状況に応じ、地区担当以外の保健師が実施した。

② 資料

対象者が高齢者であることを考慮し、文字はUDフォントを使用し、文字サイズを統一した。必要なイラストを掲載し、できるだけ専門用語は避けた。印刷はA4両面多色刷りとした。資料の内容は、結核とはどのような病気か、感染経路、症状、感染と発病の違い、発生動向、なぜ高齢者に結核が多いのか、発病予防のためにできること、早期発見・早期治療のためにできること及び相談窓口の紹介とした。

また、地区担当以外の保健師も実施できるよう、読み原稿と想定問答集を作成した。

③ 進行方法

講義10分、質疑応答5分、アンケート記入5分の合計20分とした。対象者は、加齢による聞こえにくさがあると想定されるため、健康教育開始前に声の聞こえ方を確認し、必要に応じて席の移動を促した。また、資料とアンケート用紙は健康教育開始前に配布し、資料を閲覧してもらいながら進行した。なお、質疑が活発な通いの場では、リーダーと調

整し時間を延長することがあった。

(3) アンケート調査

健康教育後に、無記名自記式アンケートを実施した。アンケート用紙は文字サイズを統一し、印刷はA4両面単色刷りとした。設問は9題とし、うち2題を用紙の裏面に印刷するレイアウトになったため、裏面の設問への回答を促す注意事項を記載したが、裏面を回答していない者がいたため、5か所目以降は回収時に裏面の設問への回答を促す声掛けを行った。

なお、設問の内容は、健康教育前後の結核に関する知識や理解の変化を把握する設問を設定したが、内容が前後で一致していないものがあつた。

(4) 倫理的配慮

アンケート調査の目的及び内容、参加は自由意思であり拒否による不利益はないことを口頭で説明し、得られた回答について、今後の結核対策に係る検討や研究に利用すること及び個人が特定されない形式で公表することを書面にて説明した。

(5) 関係者との連携

竹原市地域支えあい推進課と連携し、実施希望調査や通いの場リーダーとの連絡調整の協力を得た。また、通いの場リーダーから、日程調整、周知や会場準備の協力を得た。

III 結果

(1) 対象者の反応

健康教育中、挙手やうなずきなどの反応が多くみられた。質疑応答が活発な通いの場もあり、参加者からは「昔、結核患者の家の前は息を止めて走った」「家族が結核になったときは、食器を消毒するように言われた」などの経験談が語られた。

(2) アンケート結果

アンケートは、設問により回答者数が異なっていた。

① 基本属性 (表1)

アンケートに回答した者は153人で、回答率は99.4%であつた。

回答者は、女性が138人(90.2%)と多かつた。年齢構成は、80歳代83人(54.2%)、70歳代41人(26.8%)、90歳代以上18人(11.8%)、60歳代9人(5.9%)の順に多かつた。

表1 基本属性

	(人)	(%)
性別		n=153
男性	14	9.2
女性	138	90.2
回答しない	0	0
無回答	1	0.7
年齢		n=153
40歳代以下	1	0.7
50歳代	1	0.7
60歳代	9	5.9
70歳代	41	26.8
80歳代	83	54.2
90歳代以上	18	11.8

② 結核に関する印象や知識 (表2、表3)

健康教育前の結核に対する印象について、「他人に感染させる」94人(65.3%)、「昔の病気である」74人(51.4%)、

「感染すれば必ず発病する」35人(24.3%)、「治療法がない」3人(2.1%)

であり、自由記載欄は、「今も感染が広がっていることに驚いた」

「治療可能な病気」と記載されていた。

健康教育後の結核について当てはまると思うものについて、「治療可能な病気であり、早期発見・早期治

表2 健康教育前の結核に対する印象 (複数回答) n=144

項目	(人)	(%)
他人に感染させる	94	65.3
昔の病気である	74	51.4
感染すれば必ず発病する	35	24.3
治療法がない	3	2.1
その他 (今も感染が広がっていることに驚いた、治療可能な病気など)	6	4.2

表3 健康教育後、結核について当てはまると思うもの (複数回答) n=145

項目	(人)	(%)
治療可能な病気であり、早期発見・早期治療が重要である	122	84.1
昔の病気ではなく、現代の日本においても重大な感染症である	117	80.7
結核菌に感染しても、7~8割は一生発病しない	65	44.8
咳やたんなど、呼吸器症状のない結核は、他人に感染させることはない	55	37.9

療が重要である」122人(84.1%)、「昔の病気ではなく、現代の日本においても重大な感染症である」117人(80.7%)、「結核菌に感染しても7～8割は一生発病しない」65人(44.8%)、「咳やたんなど、呼吸器症状のない結核は、他人に感染させることはない」55人(37.9%)であった。

③ 健康教育の内容(表4、表5)

健康教育の内容について、「とても参考になった」86人(60.1%)、「参考になった」51人(35.7%)と137人(95.8%)が参考になったと回答した。

また、健康教育の内容を伝えようと思う相手について、「子」81人(57.9%)、「配偶者」72人(51.4%)、「友人」54人(38.6%)の順に多かった。

項目	(人)	(%)
とても参考になった	86	60.1
参考になった	51	35.7
どちらとも言えない	5	3.5
参考にならなかった	1	0.7

項目	(人)	(%)
子	81	57.9
配偶者	72	51.4
友人	54	38.6
孫	39	27.9
その他(親、家族全員、仏壇、空欄(3))	6	4.3

④ 結核の発病予防及び早期発見・早期治療について(表6、表7)

結核の発病予防のために取り組もうと思うもの(すでに取り組んでいるものを含む)について、「バランスのよい食事」125人(82.8%)、「適度な運動」124人(82.1%)、「十分な睡眠」105人(69.5%)、「タバコは吸わない」60人(39.7%)の順であった。

また、結核の早期発見のために対応しようと思うものについて、「体調不良の時はマスクを着用し、かかりつけ医や内科を受診する」116人(87.2%)、「毎年健康診断を受ける」76人(57.1%)であった。

項目	(人)	(%)
バランスのよい食事	125	82.8
適度な運動	124	82.1
十分な睡眠	105	69.5
タバコは吸わない	60	39.7
その他(免疫力を高める、社会参加をするなど)	10	6.6

項目	(人)	(%)
体調不良の時はマスクを着用し、かかりつけ医や内科を受診する	116	87.2
毎年健康診断を受ける	76	57.1
家族・友人に相談する	34	25.6
保健所に相談する	18	13.5
その他(かかりつけ医に相談など)	2	1.5

⑤ 結核や今後受講を希望する健康教育に対する自由意見

結核について、「必ず発病すると思っていた」「昔の病気と考えていたが、現在も高齢者の発病があり、予防を心がけたい」という意見があった。

今後受講を希望する健康教育の内容について、インフルエンザ等の感染症予防や高齢者の予防接種の希望があった。また、テーマを問わず定期的な開催を希望する意見があった。

(3) 地区担当以外の保健師の反応

「資料に読み原稿と想定問答集があったため、円滑に健康教育を実施できた」との意見が得られた。

V 考察

対象者の反応やアンケート結果から、通いの場を活用した健康教育が高齢者に対する結核の発病予防、早期発見・早期治療に関する普及啓発に効果的な場である可能性が示唆された。

(1) 通いの場で健康教育を行う意義と効果

通いの場は、介護予防だけでなく、社会参加や住民による互助を生み出す場であるとともに、地域力を高める拠点でもあるとされている⁴⁾。健康教育中に挙手やうなずき、活発な質疑応答があるなど、教育内容に対する高い関心が確認された。また、アンケート回答者の95.8%が「参考になった」と回答し、57.9%が「子」、51.4%が「配偶者」、38.6%が「友人」に内容を伝えたいと回答していた。これは、通いの場の参加者が地域のキーパーソンとして機能し、教育内容が家族や周囲の者へと波及する可能性が示された。

さらに、参加者から結核に関する印象や経験談が語られたことは、健康教育が知識の提供にとどまらず、参加者同士で経験を共有し、結核に関する知識を深めることにつながっており、通いの場での健康教育は適していると考えられる。

一方、健康教育を希望しなかった通いの場や通いの場に参加していない者にも普及啓発や健康教育が必要であるため、今後、その手法を検討する必要がある。

(2) 地域特性を踏まえた健康教育の妥当性

竹原市では新規結核登録者のうち、後期高齢者の割合が高いことから、結核の発生が多い地域から優先して健康教育を実施した。このことは、より効果的に高齢者に対する結核の発病予防、早期発見・早期治療に関する普及啓発の推進につながると考える。引き続き効果的に健康教育を実施するために、感染症の発生動向を踏まえた地区診断が重要である。

また、喀痰塗抹陰性や潜在性結核感染症の患者が多い地域では、住民が感染リスクを認識しにくい可能性があり、このような地域においては、結核の基礎知識や早期受診の重要性を伝えることが必要である。特に高齢者の結核は自覚症状に乏しく、受診や診断の遅れにつながりやすいことから、住民の行動変容を促す健康教育を行うことで結核対策の推進が期待できる。

(3) 高齢者の特性を踏まえた健康教育の課題と改善点

健康教育後のアンケートでは、「治療可能な病気であり、早期発見・早期治療が重要である」という理解は84.1%と高かった一方、「咳やたんなど、呼吸器症状のない結核は、他人に感染させることはない」という項目の正答率は37.9%にとどまったことから、感染性や感染と発病の違いが高齢者にとって理解がしにくい内容であった可能性がある。加えて、健康教育前の知識を問う設問も健康教育後に回答させたため、健康教育前後の知識や理解の変化を正確に把握できていない可能性があり、アンケート調査を実施するタイミングを検討する必要がある。

さらに、加齢に伴う視覚や聴覚の機能低下が理解力に影響したことも考えられる。本事業ではUDフォントの使用や声の聞こえ方の確認などの工夫を行ったが、今後は図表や事例を用いた説明、定期的な健康教育の実施、認知負荷を軽減する資料設計など、より高齢者に適した工夫が必要である。

また、参加者同士が「昔、結核患者の家の前は息を止めて走った」「家族が結核になったときは、食器を消毒するように言われた」など、イメージや過去の経験を共有する場面がみられたことから、知識を伝えるだけでなく、具体的な場면을イメージできる事例を紹介しながら説明することで、高齢者の理解の促進につながると考える。

(4) 関係者との連携の重要性

本事業は、竹原市地域支えあい推進課及び通いの場リーダーとの連携により円滑に実施できた。特に、実施希望調査の回収や日程調整、連絡困難なリーダーへの支援など、市担当課の役割が大きかった。また、通いの場リーダーは参加者への周知や会場準備を担い、地域に根ざした活動としての実施を支えた。

なお、地域保健活動においては、行政・地域住民・専門職の協働が重要であり、引き続き関係者と顔の見える関係を構築する必要がある。

(5) 研究の限界

健康教育の実施は通いの場の希望に基づくものであったため、健康意識が高い集団である可能性があり、健康教育の効果を一般化することはできない。

また、アンケート項目が健康教育前後で一致していないため、結核に対する知識や理解の変化を比較できない。加えて、アンケートの設問により回答がない者や裏面の記入がない者がおり、高齢者が回答しやすいアンケートの設計や記入支援の必要が示唆された。

VI まとめ

高齢者に対する結核の普及啓発について、通いの場を利用した健康教育は有効であることが示唆された。

今後も、健康教育の実施を希望する通いの場のうち未実施の通いの場や、管内他市町においても健康教育を実施し、結核対策の更なる推進を図る必要がある。

参考文献

- 1) 広島県健康福祉局健康危機管理課：広島県における結核の現状、2024.
- 2) 広島県西部東厚生環境事務所・保健所：事業概要、2022、2023、2024.
- 3) 公益財団法人結核予防会結核研究所：高齢者施設・介護職員対象の結核ハンドブック、2016
- 4) 厚生労働省：通いの場の課題解決に向けたマニュアル Ver. 1、2024
- 5) 公益財団法人結核予防会：正しく知ろう結核の常識、2024
- 6) 公益財団法人結核予防会：今こそ！正しく知ろう！結核と呼吸器感染症、2025
- 7) 公益財団法人結核予防会：結核医療の基準（令和3年改正）とその解説、2024
- 8) 公益財団法人結核予防会：感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引きとその解説、2022
- 9) 厚生労働省：結核. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html (2026年1月23日アクセス可能).